

教 科	受験番号
地理歴史 (地理)	

1 次の設問 (1) ~ (10) に答えよ。

- (1) 高校生のなおこさんは、興味をもったテーマについて、資料を集め、調べた内容をまとめた。下はそのまとめの一部である。(X) に当てはまる語句を①~④の中から、(Y) に当てはまる国名を⑤~⑧の中から、それぞれ一つずつ選べ。

【なおこさんのまとめ】 テーマ「各国における (X) の実現」

表から、第一次世界大戦のころに、(X) が実現した国がいくつかあることが分かる。第一次世界大戦のころに作成された資料を参考にして考えると、第一次世界大戦が総力戦であったことが、背景にあるのではないだろうか。

また、(Y) では、女性の (X) は 1945 年に実現している。このことは、西暦を参考にして考えると、第二次世界大戦と関係があるのではないだろうか。今後、これらのことについてさらに調べてみたい。

【表】各国における (X) の実現 【資料】女性に戦時協力を求めるポスター (左)

国名	男性	女性
フランス	1848 年	1945 年
アメリカ	1870 年	1920 年
ドイツ	1871 年	1919 年
イギリス	1918 年	1928 年
(Y)	1925 年	1945 年

軍需工場で働く女性が描かれた図 (右)

著作権保護の観点により、掲載いたしません

- ① 海外移住 ② 普通選挙 ③ 義務教育 ④ 外貨の所有
 ⑤ 中国 ⑥ ソ連 ⑦ 日本 ⑧ インド

(2) 表は、人権に関する史料をまとめたものであり、史料 A～E は、権利の章典、アメリカ独立宣言、フランス人権宣言、グナイマル憲法、世界人権宣言のいずれかである。アメリカ独立宣言、フランス人権宣言は、史料 A～E のうちどれか。その組合せとして正しいものを、次の①～⑩の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ① アメリカ独立宣言 = 史料 A フランス人権宣言 = 史料 B
- ② アメリカ独立宣言 = 史料 B フランス人権宣言 = 史料 C
- ③ アメリカ独立宣言 = 史料 C フランス人権宣言 = 史料 D
- ④ アメリカ独立宣言 = 史料 D フランス人権宣言 = 史料 E
- ⑤ アメリカ独立宣言 = 史料 E フランス人権宣言 = 史料 A
- ⑥ アメリカ独立宣言 = 史料 A フランス人権宣言 = 史料 C
- ⑦ アメリカ独立宣言 = 史料 B フランス人権宣言 = 史料 D
- ⑧ アメリカ独立宣言 = 史料 C フランス人権宣言 = 史料 E
- ⑨ アメリカ独立宣言 = 史料 D フランス人権宣言 = 史料 A
- ⑩ アメリカ独立宣言 = 史料 E フランス人権宣言 = 史料 B

(3) 表は、17世紀から19世紀のおもな戦争に関する説明をまとめたものである。表中の「戦争に関する説明」の内容が誤っているものを、次の①～⑤の中から全て選べ。ただし、誤っているものがない場合は⑥を選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(戦争の名称、年号は、レスター=R=プラウン『地球白書 1999-2000』より作成)

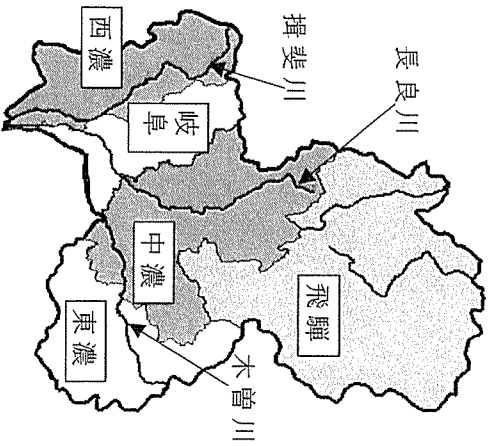
- | | | |
|----------|--------|------------------|
| ① 三十年戦争 | ② 七年戦争 | ③ フランス革命／ナポレオン戦争 |
| ④ クリミア戦争 | ⑤ 南北戦争 | |

- (4) 木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）の治水工事に関する記述について、地図、グラフ、資料1～4を参考にして、誤っているものを、次の①～④の中から全て選べ。

【地図】 岐阜県の地域と主な河川

【グラフ】

西濃地域における水害回数数の推移



美濃地方：岐阜、西濃、中濃、東濃
飛騨地方：飛騨

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(岐阜地方気象台編『岐阜県災異誌』より作成)

【資料1】

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(『岐阜の人物と生き方』)

【資料2】

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(『西高木家文書』)

【資料3】

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(『史料にみる岐阜県の歴史』)

【資料4】

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(『史料にみる岐阜県の歴史』)

- ① 17世紀前半、美濃地方の治水工事は一元的に強力には進まず、西濃の水害は増加傾向にあった。
- ② 宝暦3年、水害に悩まされてきた村々による治水工事の請願が幕府に聞き届けられたと考えられる。
- ③ 宝暦年間の薩摩藩による三川分流工事によって、その後100年間に西濃の水害は半減した。
- ④ ヨハネス・デレーケらによる明治期の治水工事後、西濃の水害は減少した。

(5) 明治時代の日本の対外関係に関するできごとについての記述として誤っているものを、次の①～⑦の中から二つ選べ。

- ① 琉球漂流民殺害事件の後、日本は台湾に出兵した。その後、清国との間に、日本が外国と結んだ最初の対等条約となる日清修好条規を締結した。
- ② 江華島事件を機に、日本は朝鮮を開国させた。その後、日本優位の不平等条約である日朝修好条規を締結した。
- ③ 首相に就任した山県有朋は、甲午農民戦争の発生の後、朝鮮半島における利益線を重視する施政方針演説を行った。
- ④ 日本は、日清戦争において黄海海戦で清国を撃破し、威海衛を占領した。戦いは日本の勝利に終わり、その後、講和条約として下関条約を締結した。
- ⑤ ロシア軍が北清事変後も満州への駐留を続けていた事などから、日本はイギリスとの間に日英同盟協約を締結した。
- ⑥ 日本は、日露戦争において日本海海戦でロシアの艦隊を打ち破った。その後、アメリカ大統領の斡旋により、講和条約としてポーツマス条約を締結した。
- ⑦ 日本は、ハーグ密使事件を機に、第三次日韓協約を結び韓国内政権を手に入れた。その後、韓国併合に関する条約を締結した。

(6) 戦後日本の経済や財政の動向に関する記述について、1965～74年に起きたできごととして正しいものを、次の①～⑩の中から二つ選べ。

- ① 朝鮮戦争が始まると、日本での軍需物資の調達が始まり、特需景気がおこった。
- ② 池田内閣は、10年間で実質国民所得をほぼ2倍にする「所得倍增計画」を閣議決定した。
- ③ 中曽根内閣は大型間接税の導入に失敗したが、竹下内閣は消費税の導入を実現した。
- ④ テレビ放送が開始され、白黒テレビの普及率が初めて50%を超えた。
- ⑤ アメリカの危機的な国際収支を受けたヨーロッパ諸国が、自国通貨をドルに対して切り上げたことへの対応を迫られた日本は、変動為替相場制に移行した。
- ⑥ プラザ合意前に1ドル240円台だった相場が、2年後に1ドル120円台に上がった。
- ⑦ 第四次中東戦争が勃発すると、日本では狂乱物価によるパニックが発生した。
- ⑧ 日本経済は、第二次石油危機を金融引締めによって乗り切り、安定成長の軌道に入った。
- ⑨ 経済安定九原則を実行するため、デトロイト銀行頭取のトジジが来日することになった。
- ⑩ 金融機関や企業においてだぶついた資金が市場に流入し、地価や株価が高騰するバブル経済がおこった。

(7) 次の地図や地理情報に関する記述について、下線に誤りを含むものを、①～⑥の中から全て選べ。ただし、全て正しい場合は⑦を選べ。

地図には、地表の事象を縮尺に応じて網羅的に表現し、様々な用途に用いられる一般図と、事象を取捨選択して特定の主題を取り上げた主題図がある。

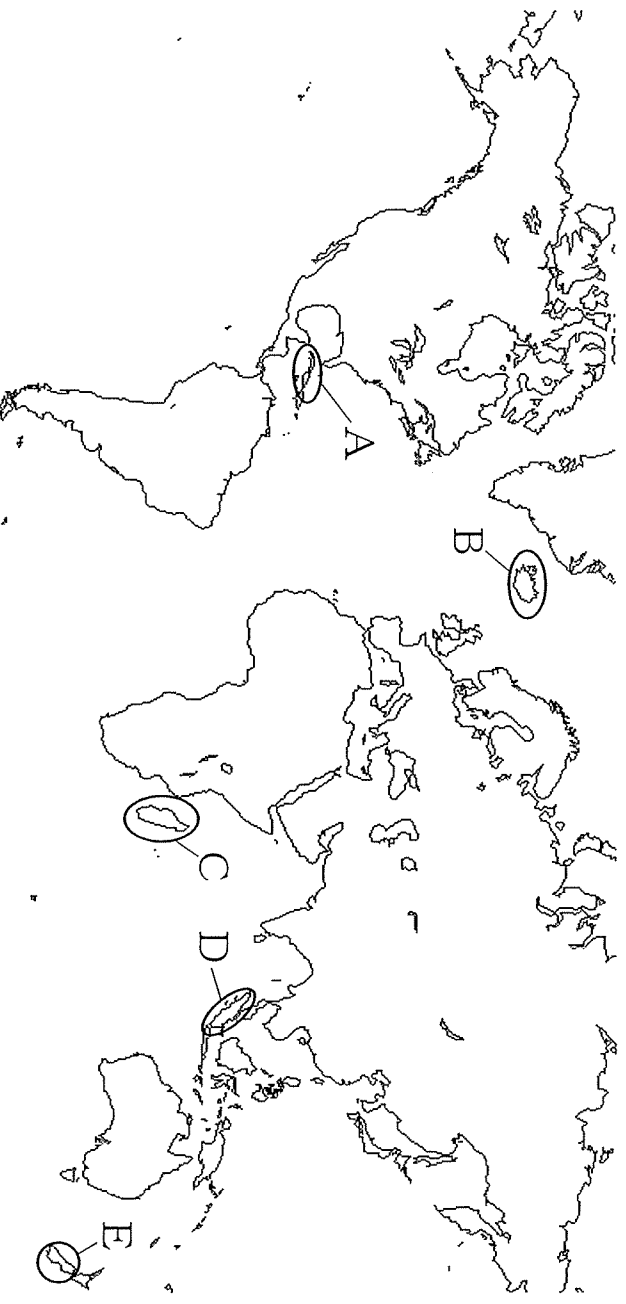
一般図には、国土地理院発行2万5千分の1地形図があり、①正積図法の一種であるユニバーサル横メルカトル図法によって作成されている。②2万5千分の1地形図では、50mごとに描かれた計曲線と、10mごとに描かれた主曲線によって地形の起伏や傾斜が示されている。

主題図には、統計数値を用いて数量や分布を示した統計地図があり、目的に応じて様々な地図が作成されている。③地域を等面積の網目に区切り、各網目を単位として統計データを地図化した階級区分図や、線の太さ等で絶対量や移動の方向を示す流線図、④統計データを分かりやすく効果的に示すために、元の地図を変形させた図形表現図などもある。

近年は、地理情報システムの利用も進み、⑤GPSなどに代表される緯度・経度などの位置情報を得ることのできる全球測位衛星システムや、⑥地上から離れたところから陸上・海洋・大気等の現象を観測・探査するリモートセンシング等で得られた情報と様々な統計データ等を重ね合わせたデジタル地図も作成され、広く用いられている。

- (8) 地図中に○で示されたA～Eの島についての記述として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

【地図】



- ① Aは、島全体が年間を通して熱帯収束帯（赤道低圧帯）の下に入るためAf気候となる。また、プレート同士が水平方向にずれることによって形成されたサンプレートアス断層が見られる。
- ② Bは、島全体が寒冷で樹木が生育しないEf気候である。また、島の中央を縦断するプレートの広がる境界に沿って火山が分布している。
- ③ Cの東岸は、貿易風によって年間を通して高温で湿潤なAf気候となる。また、プレートの広がる境界上であり、アフリカ大地溝帯が島の南北を縦断している。
- ④ Dは、年間を通して熱帯収束帯（赤道低圧帯）の影響下にあるため、山岳部を除いてAf気候となる。また、プレートの狭まる境界に位置する弧状列島を構成する1つである。
- ⑤ Eは、沿岸を流れる暖流と偏西風の影響を受けることで、島全体がCfa気候となる。また、プレートの狭まる境界に位置し、環太平洋造山帯の一部を形成している。

(9) 自然災害に関する記述 X ~ Z について、その正誤の組合せとして正しいものを、次の①～⑦の中から一つ選べ。

- X 低平な沿岸部では、台風が接近すると、気圧が低下したり湾の奥に海水が吹き寄せられたりすることによって海面の水位が上昇する高潮の被害を受けることがある。
- Y 河川の中下流域などに見られる氾濫原では、大雨などにより河川の水量が著しく増加すると、河川の水が流出する内水氾濫が発生する。
- Z 複雑な海岸線をもつリアス海岸の湾奥の地域では、海溝型地震が発生して狭い入り江に津波が押し寄せると、高い波となりやすい。

- | | | | | | |
|---------|-------|-------|---------|-------|-------|
| ① X = 正 | Y = 正 | Z = 正 | ② X = 正 | Y = 正 | Z = 誤 |
| ③ X = 正 | Y = 誤 | Z = 正 | ④ X = 正 | Y = 誤 | Z = 誤 |
| ⑤ X = 誤 | Y = 正 | Z = 正 | ⑥ X = 誤 | Y = 誤 | Z = 正 |
| ⑦ X = 誤 | Y = 正 | Z = 誤 | ⑧ X = 誤 | Y = 誤 | Z = 誤 |

(10) 次の表 1、表 2 は、日本における、1970 年と 2018 年の韓国、マレーシア、ブラジル、オーストラリアからの主な輸入品の上位 3 品目の割合を示している。マレーシアからの主な輸入品の上位 3 品目の割合を示すものを、1970 年は表 1 の①～④の中から、2018 年は表 2 の⑤～⑧の中から、それぞれ一つずつ選べ。

【表 1】 1970 年の日本の主な輸入品

<p>著作権保護の観点により、掲載いたしません。</p>

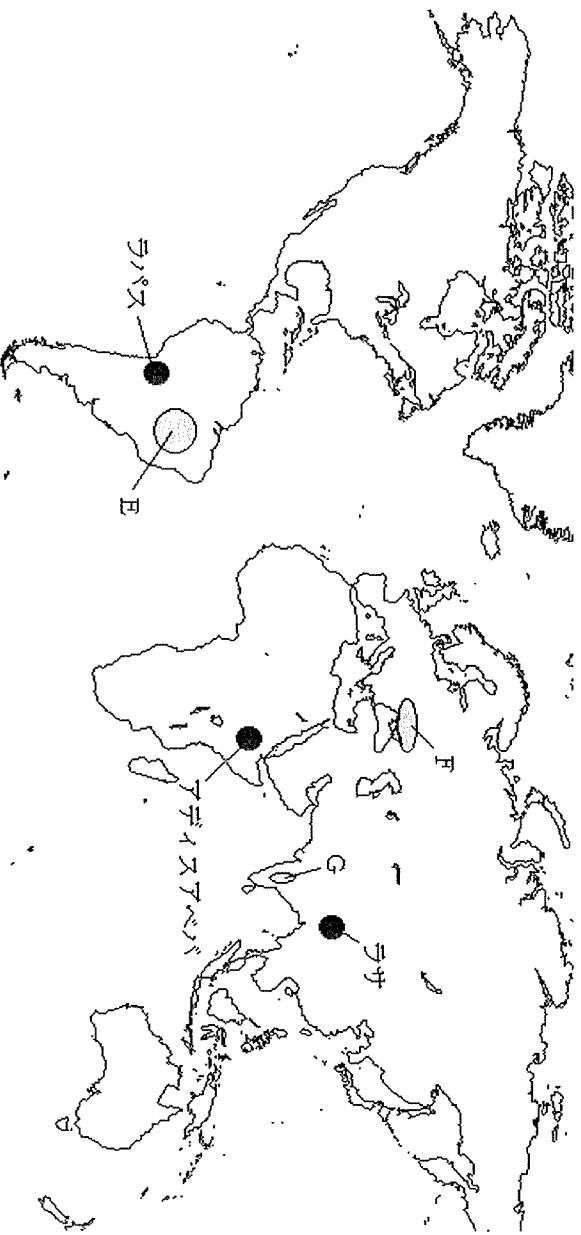
(『数字でみる日本の 100 年』より作成)

2

次の記述と地図について、設問(11)～(14)に答えよ。

世界各地には、A 地殻変動による山脈や造陸運動により形成された平原などの大地形が見られる。このような B 大地形は、地域の気候を決定する因子の一つとなっている。また、地殻変動が活発な地域では、地震や津波などの C 自然災害が多く発生し、被害を少なくするための対策が必要とされている。加えて、地表をつくる岩石は、有機物と混じり合って D 土壌を形成し、農業などの産業にも大きな影響を与えている。

【地図】



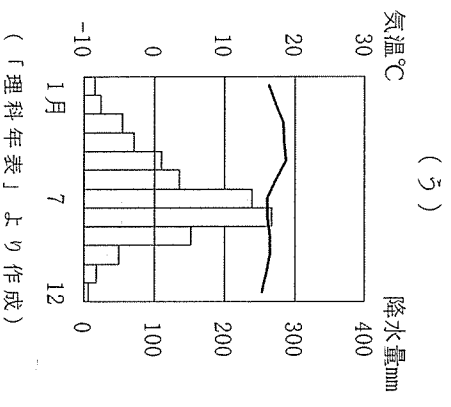
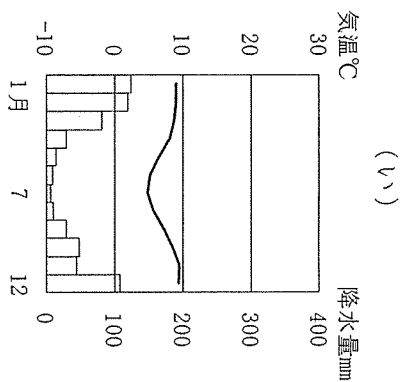
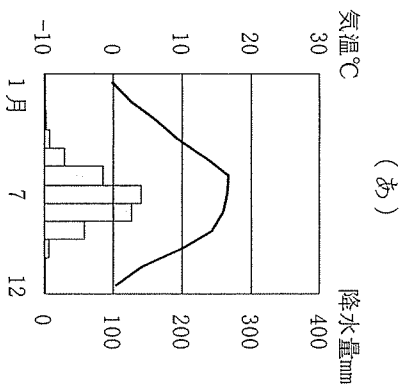
(11) 下線Aについて、次の表は、アジア、ヨーロッパ、オーストラリア、北アメリカ、アメリカの高度別面積の割合を示している。北アメリカとオーストラリアの組合せとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(『データブック オブ・ザ・ワールド 2021年版』より作成)

- | | | | |
|-------------|------------|-------------|-------------|
| ① 北アメリカ＝I | オーストラリア＝II | ② 北アメリカ＝I | オーストラリア＝III |
| ③ 北アメリカ＝II | オーストラリア＝I | ④ 北アメリカ＝II | オーストラリア＝III |
| ⑤ 北アメリカ＝III | オーストラリア＝I | ⑥ 北アメリカ＝III | オーストラリア＝II |

(12) 下線Bについて、次の雨温図(あ)～(う)と、地図中に示したラパス、アデアスベバ、ラサとの組合せとして正しいものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。



- | | | |
|-----------------|---------------|---------------|
| ① (あ) = ラパス | (い) = アデアスアベバ | (う) = ラサ |
| ② (あ) = ラパス | (い) = ラサ | (う) = アデアスアベバ |
| ③ (あ) = ラサ | (い) = ラパス | (う) = アデアスアベバ |
| ④ (あ) = ラサ | (い) = アデアスアベバ | (う) = ラパス |
| ⑤ (あ) = アデアスアベバ | (い) = ラサ | (う) = ラパス |
| ⑥ (あ) = アデアスアベバ | (い) = ラパス | (う) = ラサ |

(13) 下線Cについて、次のグラフは、2019年のアメリカ、南北アメリカ、アジア、ヨーロッパ、オセアニアにおける自然災害の発生件数、被害額、被災者の割合を示している。南北アメリカに当てはまるものを、グラフの①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(14) 下線Dについて、記述X～Zの正誤の組合せとして正しいものを、次の①～⑧の中から一つ選べ。

X 地図中のEには、間帯土壌であるラトソルと呼ばれる石灰岩が風化した肥沃な赤色土が分布し、主に輸出を目的としたコーヒー豆のプランテーションが発達している。

Y 地図中のFには、成帯土壌であるチェルノーゼムと呼ばれる肥沃な黒色土（黒土）が分布し、小麦の栽培が盛んに行われている。

Z 地図中のGでは、間帯土壌であるレグールと呼ばれる玄武岩が風化した肥沃な黒色土が分布し、輸出を目的とした稲作の中心地となっている。

- | | | | | | |
|---------|-------|-------|---------|-------|-------|
| ① X = 正 | Y = 正 | Z = 正 | ② X = 正 | Y = 正 | Z = 誤 |
| ③ X = 正 | Y = 誤 | Z = 正 | ④ X = 正 | Y = 誤 | Z = 誤 |
| ⑤ X = 誤 | Y = 正 | Z = 正 | ⑥ X = 誤 | Y = 誤 | Z = 正 |
| ⑦ X = 誤 | Y = 正 | Z = 誤 | ⑧ X = 誤 | Y = 誤 | Z = 誤 |

3

ヨーロッパの地理について、次の記述を読んで設問(15)～(18)に答えよ。

ヨーロッパでは、EUによる統合により、A人やモノの域内移動の自由化が実現した。早くから工業が発展していた西ヨーロッパでは、ドイツのルール地方などに機械工業などを中心とした工業地域が形成されている。また、B第三のイタリヤ(サードイタリー)などのような産業集積も見られる。
C 農業では、かつて主に アにより侵食されたやせた土地が広がる北海沿岸の地域では酪農が、アにより削られた表土が風などに運ばれ、レスとして広範囲に堆積している北西ヨーロッパでは穀物栽培と畜産を組み合わせた混合農業が、地中海気候が見られるヨーロッパ南部の地域では、イことから、果樹栽培と小麦栽培を組み合わせた伝統的な地中海式農業が盛んである。

(15) 下線Aについて、次のグラフは、2018年のドイツ、スペイン、ポーランド、フランスにおける、観光のために出国した国民の数と海外から観光で訪れた人の数を示している。X～Zの国の組合せとして正しいものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(「国連世界観光機関(UNWTO) TOURISM DATA DASHBOARD」より作成)

- | | | | |
|---|-----------|-----------|-----------|
| ① | X = スペイン | Y = ポーランド | Z = ドイツ |
| ② | X = スペイン | Y = ドイツ | Z = ポーランド |
| ③ | X = ドイツ | Y = ポーランド | Z = スペイン |
| ④ | X = ドイツ | Y = スペイン | Z = ポーランド |
| ⑤ | X = ポーランド | Y = ドイツ | Z = スペイン |
| ⑥ | X = ポーランド | Y = スペイン | Z = ドイツ |

(16) 下線Bの主な特徴を示す文(a)～(c)と、代表的な都市(d)～(f)との組合せとして正しいものを、次の①～⑨の中から一つ選べ。

<主な特徴>

- (a) 大企業を中心に、関連する下請企業が集積することで企業城下町をつくり、垂直分業の体制が形成されている。
- (b) 先端技術の研究から製品の製造までのネットワークが形成され、そのネットワークに食いこむために世界の先端技術産業が集まっている。
- (c) 家族経営を主体とする小零細企業や中小企業が多く、生産や販売を指示、調整する業者を中心に水平的なネットワークが作られ、企業同士が対等に横に結びついている。

<代表的な都市>

(d) タラント (e) ボローニヤ (f) トリノ

- ① (a)・(d) ② (a)・(e) ③ (a)・(f)
- ④ (b)・(d) ⑤ (b)・(e) ⑥ (b)・(f)
- ⑦ (c)・(d) ⑧ (c)・(e) ⑨ (c)・(f)

(17) 下線Cについて、EJにおける共通農業政策に関する記述として正しいものを、

次の①～⑤の中から一つ選べ。

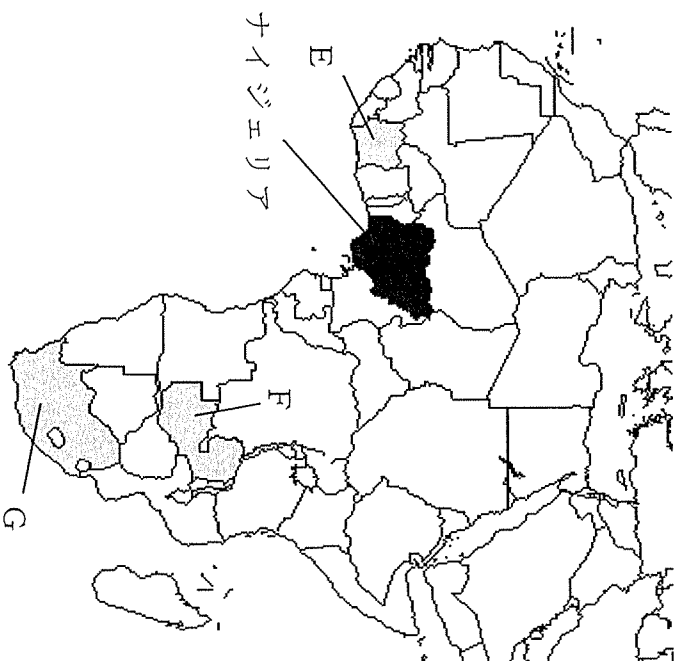
- ① 計画経済からの転換により、自営農や市民菜園による副業が増加し、近年では国営農場や集団農場を再編し、農業企業による農業生産も増加している。
- ② 農業収入の一定額を国に支払い、残りは個別農家の収入としたことで、農家の生産意欲が高まり、農業生産が急増した。
- ③ 食生活の多様化により、主食となる米の消費量が減少したことを背景に、米の生産調整とその他の作物への転換を促す減反が行われた。
- ④ 域外からの輸入農産物に課徴金を課し、域外への農産物の輸出に補助金を支給することで農業生産の向上をはかったが、余剰農産物の発生や財政圧迫などの課題が生じた。
- ⑤ 集団での農業を営むとともに、ほとんどの農民が所属する、行政や教育の機能をもつ人民公社とよばれる組織が作られた。

(18) 記述の中の 、 に当てはまる言葉の組合せとして正しいものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。

- ① ア＝波浪 イ＝熱帯収束帯（赤道低圧帯）によって冬に乾燥する
- ② ア＝波浪 イ＝亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）によって夏に乾燥する
- ③ ア＝波浪 イ＝極高圧帯により年間を通して乾燥する
- ④ ア＝氷床 イ＝熱帯収束帯（赤道低圧帯）によって冬に乾燥する
- ⑤ ア＝氷床 イ＝亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）によって夏に乾燥する
- ⑥ ア＝氷床 イ＝極高圧帯により年間を通して乾燥する

4 次の地図について、設問(19)～(21)に答えよ。

【地図】



(19) アフリカの自然環境に関する記述として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① アフリカのほとんどは安定陸塊であるが、北部には古期造山帯のアトラス山脈が、南部には新期造山帯のドラケンスバーグ山脈が連なっている。
- ② アフリカ南部の西岸は、南下する寒流のベンゲラ海流が流れており、その影響を受けた海岸砂漠が広がっている。
- ③ 世界最大の砂漠であるサハラ砂漠の東部には、外来河川である世界最長のナイル川が南から北へ流れており、河口付近には広大な三角洲が形成されている。
- ④ 赤道付近のコンゴ盆地やギニア湾の周辺には、カンボと呼ばれる熱帯雨林が広がり、赤道から離れるにつれてサバナが広がる。
- ⑤ サハラ砂漠の北縁に沿って、東西にのびる帯状の地域はサヘルと呼ばれており、もとは草原地帯だったが、砂漠化が進んでいる。

- (20) 次のグラフ(あ)～(う)は、地図のE～Gの国における2019年の主な輸出品の上位2品目の割合を示している。グラフと国の組合せとして正しいものを、次の①～⑥から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(『世界国勢図会 2021/22年版』より作成)

- | | | | | | | | |
|---|---------|---------|---------|---|---------|---------|---------|
| ① | (あ) = E | (い) = F | (う) = G | ② | (あ) = E | (い) = G | (う) = F |
| ③ | (あ) = F | (い) = E | (う) = G | ④ | (あ) = F | (い) = G | (う) = E |
| ⑤ | (あ) = G | (い) = E | (う) = F | ⑥ | (あ) = G | (い) = F | (う) = E |

- (21) 次のグラフのX～Yは、ナイジェリア、アメリカ、韓国における都市人口率の変化を示している。X～Yと国の組合せとして正しいものを、次の①～⑥から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(『World Urbanization Prospects』より作成)

- | | | | |
|---|------------|------------|------------|
| ① | X = ナイジェリア | Y = アメリカ | Z = 韓国 |
| ② | X = ナイジェリア | Y = 韓国 | Z = アメリカ |
| ③ | X = アメリカ | Y = ナイジェリア | Z = 韓国 |
| ④ | X = アメリカ | Y = 韓国 | Z = ナイジェリア |
| ⑤ | X = 韓国 | Y = ナイジェリア | Z = アメリカ |
| ⑥ | X = 韓国 | Y = アメリカ | Z = ナイジェリア |

5 日本の地理について、次の記述を読んで設問(22)～(25)に答えよ。

日本は、新期造山帯に属し、国土の約7割が山地となっている。この山地から流れ出るA 河川の作用によって地形が作られ、人々はその地形を利用して生活を営んできた。

B 沿岸部には平野が広がり、多くの都市や港が形成され、様々な産業が発展してきた。平野では稲作を中心とした農業が行われてきたが、近年は後継者不足やC 輸入農産物の流入などにより、農地の多くが工場や宅地などに転換されている。

臨海部の港の周辺には工業地域が多く見られ、加工貿易により様々な工業製品が世界各地へ輸出されている。中でも、アジアの国々との貿易は拡大しており、D アジアの国々からやって来る労働者も増加している。

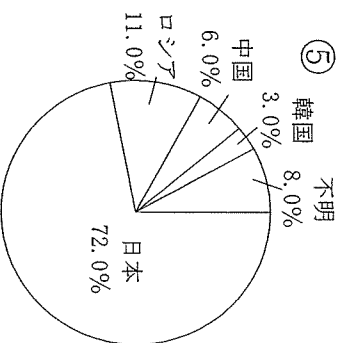
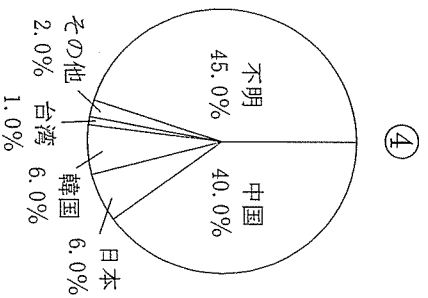
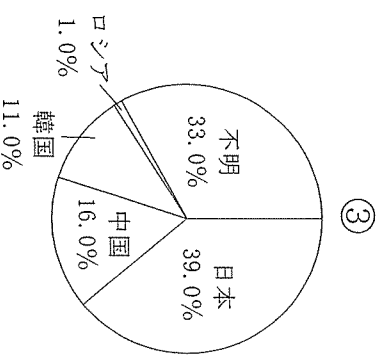
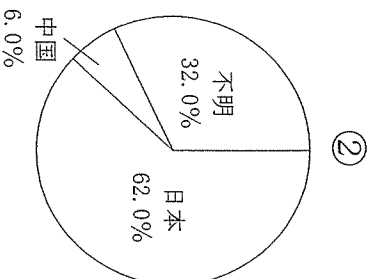
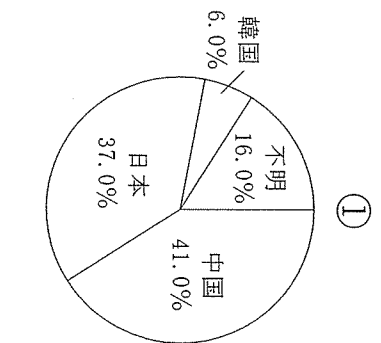
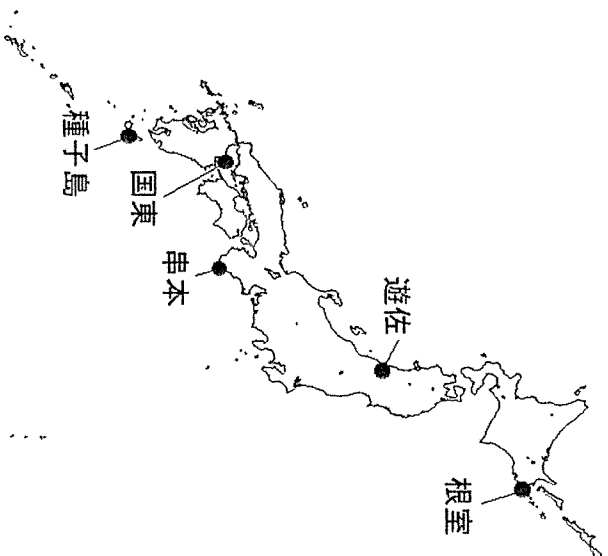
(22) 下線Aについて、次の地形図に関する記述の下線に誤りを含むものを、①～④の中から全て選べ。ただし、全て正しい場合は⑤を選べ。なお、地形図の縮尺は原寸から拡大して示している。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(2万5千分の1地形図「沼田」より作成 一部改変)

この地形図に示された地形は、北東から南西の方角に向かって流れる河川に沿って形成された河岸段丘である。河岸段丘は、主に①河川の運搬と堆積によって形成された台地の地形の一つで、一般に、数段の段丘面がある場合、②高い段丘面ほど古い時代に形成されている。この地形図に見られる土地の標高を比べると、③④付近は⑤付近よりも標高の高いところに位置している。また、④段丘崖にはつづら折りの道路が見られる。

(23) 下線 B について、次のグラフ①～⑤は、地図に示した根室、遊佐、串本、国東、種子島の沿岸に漂着したペットボトルが製造された国や地域の割合を示している。串本に漂着したペットボトルが製造された国や地域の割合を示したグラフを、①～⑤の中から一つ選べ。



※データは、平成 28 年度調査による。

(「海洋ごみをめぐる最近の動向(環境省)平成 30 年 9 月」より作成)

- (24) 下線Cについて、次のグラフのX～Zは1960年から2018年までの日本における米、肉類、魚介類の輸入量の推移を示している。米と肉類の組合せとして正しいものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(『数字でみる日本の100年』より作成)

- ① 米=X 肉類=Y ② 米=X 肉類=Z ③ 米=Y 肉類=X
④ 米=Y 肉類=Z ⑤ 米=Z 肉類=X ⑥ 米=Z 肉類=Y

- (25) 下線Dについて、次のグラフは、日本に居住する外国人の国籍別の人数を示しており、グラフの①～⑤は、アメリカ、ブラジル、ベトナム、フィリピン、中国のいずれかである。ベトナムに当てはまるものを、グラフの①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(『数字でみる日本の100年』より作成)



令和5年度採用 岐阜県公立学校教員採用選考試験
 第1次選考試験 高等学校 地理歴史(地理)

問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正解	②⑦	④	⑥	③	①③	⑤⑦	①③④	④	③	①⑦

問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正解	①	③	②	⑦	③	⑧	④	⑤	③	④

問題番号	21	22	23	24	25
正解	④	①③	①	⑥	②

